

前肢を欠損したニホンイシガメの孵化幼体

加賀山翔一

274-8510 千葉県船橋市三山2-2-1 東邦大学大学院理学研究科

Field observation of an injured hatchling Japanese pond turtle *Mauremys japonica*

By Shawichi KAGAYAMA

Department of Biology, Graduate School of Science, Toho University Miyama 2-2-1,
Funabashi, Chiba 274-8510, Japan.

淡水性カメ類の生存個体の中には、捕食者に襲われたために四肢や尾の一部に欠損が見られる個体が存在することが知られている(e.g. Tucker et al., 1999; 小菅・小林, 2015). しかしながら、報告例のほとんどは身体のかなりの大きさの成体での事例が多く、身体が小さいために捕食者に丸ごと捕食されやすい孵化幼体において、四肢が欠損した事例は全くと言っていいほど報告されてこなかった. 本稿では、左手首を欠損したニホンイシガメの孵化幼体を発見したため、ここに報告する.

2017年3月15日の15時16分に、千葉県房総半島の平野部に位置する小河川において、水中でじっとしているニホンイシガメの孵化幼体(昨年の夏生まれの0歳)を発見した(性別:不明, 背甲長:35.40 mm, 腹甲長:28.85 mm, 体高:14.00 mm, 体重:6 g). 甲羅には目立った外傷は見られなかったが、左前肢の手首が欠損していた(図1). なお、傷跡は既に治癒しているようで、捕獲した個体は元気に動いていた.

この個体の左手首が欠損していた原因として、生まれつきの異常のために片手首が無い可能性も否定できないが、発見地点の周辺には捕食者となり得る在来種のサワガニ(*Geothelphusa dehaani*)やモクズガニ(*Eriocheir japonica*), 外来種のアメリカザリガニ(*Procambarus clarkii*)が数多く生息しているため、孵化後にこれらの捕食者に襲われたために片手首を失った可能性が高いと考えられた. 一般的に、淡水性カメ類の孵化幼体の生存率は非常に低く(Iverson, 1991), さらにカメ類にとって、前肢は移動や採餌の際に非常に重要な部品となるため、四肢を欠損したこの個体は他の孵化幼体に比べ、生存上、非常に不利になると予想された.

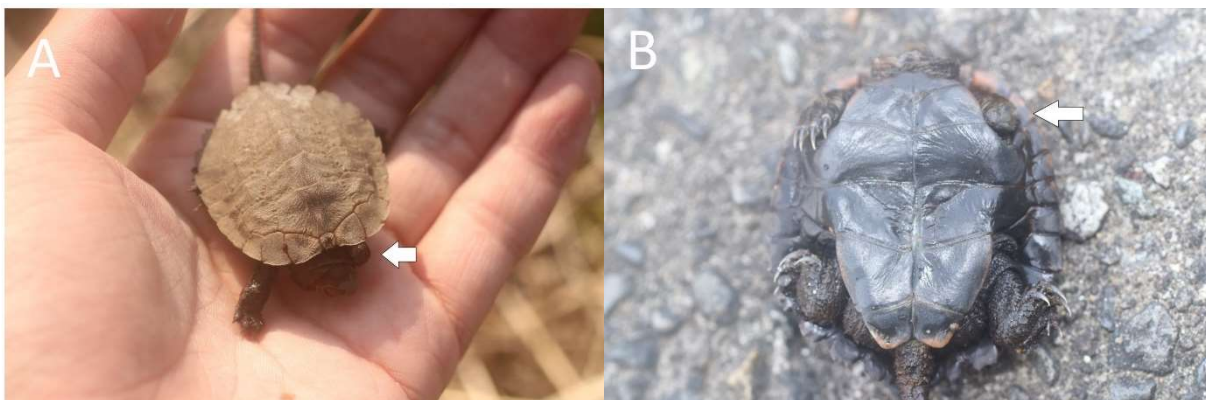


図1. 左前肢を欠損したニホンイシガメ孵化幼体 A) 背甲側 B) 腹甲側

引用文献

- Iverson, J. B. 1991. Patterns of survivorship in turtles (order Testudines). *Canadian Journal of Zoology* 69(2) : 385-391.
- 小菅康弘・小林頼太. 2015. アライグマによる淡水カメ類の危機 (特集 日本における淡水カメ類の保全と管理). *爬虫両棲類学会報* 2015(2) : 167-173.
- Tucker, J. K., Filoramo, N. I., & Janzen, F. J. 1999. Size-biased mortality due to predation in a nesting freshwater turtle, *Trachemys scripta*. *The American midland naturalist* 141(1) : 198-204.